

# 令和7年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

世田谷区立駒繫小学校長 佐々木 克二

## 主要取組1

重点目標に『やさしく』《德育》を位置付け、気持ちのこもった挨拶があふれる学校づくりに取り組む。

基本的な生活習慣及び学習習慣の定着を図り、児童自ら考えて行動できるようにした。特に「気持ちのこもったあいさつをする」ことを「こまつなぎスタンダード 2025」として徹底してきた。全校朝会では、月ごとに「あいさつ宣言」を全学年で行うなど、児童へのあいさつへの意識付けを強化してきた。数値目標としていた「私は、すすんであいさつをしている。」の肯定的評価90%以上に対し、令和7年度の児童の肯定的評価は94%と、目標を達成することができた。

また、『あいさつ(ことば)』を一つのツールとして、『「自分」と「他者(友だち)」を大切にする』ことができる児童の育成を目指してきた。数値目標としていた『私は「自分」と「友達」を大切にしている』の児童の肯定的評価94%に対し、97%と、目標を達成することができた。

## 主要取組2

「教職員のいないところには、子供はいない。子供がいるところには、教職員がいる。」を教職員の安全管理基本行動とする。

学校内外の教育活動において、『教職員のいないところには、子供はいない。子供のいるところには、教職員がいる。』をスローガンに掲げ、本校教職員の安全管理における基本行動として、児童の心と身体の安全を担保し、安心な学校づくりに取り組んできた。数値目標としていた「私は、安全に気を付けて生活をしている」の児童の肯定的評価94%以上に対し、93%と、目標は達成できなかったが高い水準は維持することができた。

## 主要取組3

「いじめ0(ゼロ)」をめざして、いじめ未然防止、早期発見・解決に取り組む。

年間を通じて、8月を除く毎月、「学校生活についてのアンケート」を実施し、いじめの未然防止・早期発見・解決に取り組んできた。また、学級内での情報は、必ず学年で共有・対応し、毎月の「いじめ未然防止委員会」をはじめとして、学校全体での迅速な情報共有と対応・解決に努める等、担任一人で抱え込ませない組織的対応をめざしてきた。数値目標としてきた「いじめをしない させない 許さない」ができています。の児童の肯定的評価90%以上に対して、93%と、目標を達成することができた。

## 主要取組4

「こまつなぎスタンダード2025」を策定し、学習・生活指導の充実に取り組む。

学習面、生活面での行動指針「こまつなぎスタンダード2025」を策定し、目前の児童の実態に基づき、全教職員が同一の指導(ベクトル)を実施して、学習・生活指導の充実に努めてきた。また、学年付副担任(専科教員)を設け、学年の全児童の学習及び生活において、指導・支援を充実させ、学年団力の向上を図ってきた。数値目標としていた「学校のきまり(スタンダード等)を守って、行動している。」の児童の肯定的評価90%以上に対して、89%と、目標は達成できなかったが、高い水準は維持することができた。

## 主要取組5

緊急時の対応体制の強化を図る。

本校独自のガイドライン『「南海トラフ地震に関する情報(臨時情報)」が発表された場合の対応について』を設定する等、区の『天候や地震等、不測の事態での児童の安全確保について』のガイドライン等に基づいて対応してきた。そして、学校緊急連絡情報配信サービス「すぐーる」を積極的に活用し、連絡体制の強化を図ってきた。また、今年度より地域の避難所運営訓練に教員も参加する等、災害時の地域と学校の連携を強化することができた。数値目標としていた「本校は、安全な学校づくりに努めている。(安全管理、いじめ未然防止、避難訓練、自然災害対応等)」の保護者の肯定的評価85%以上に対して、92%と目標を達成することができた。

## 主要取組6

研究主題「授業改善×iPad “教える“から“学びとる“へ」目指す児童像「自立的に学びとる、クリエイティブな学習者」を設定し、校内研究・研修に取り組む。

校内研究・研修等に「iPad を有効活用した授業改善」を位置付け、研究・研修を重点的に実施し、教育課題の解決に取り組む過程で、一人一人の教育の課題解決能力の向上を図ってきた。数値目標としていた『私にとってiPad は、学習に欠かせない、「学びの相棒」になっている』の児童の肯定的評価95%以上に対して、95%と目標を達成することができた。